

# HANDS next

【ハンズネクスト】

とちぎ多文化共生教育通信

News Letter  
“HANDS next”

vol

13

発行：「宇都宮大学 HANDS プロジェクト」研究チーム

※『HANDSnext』は2007年より発行された宇都宮大学特定重点推進研究グループ通信『HANDS』をリニューアルしたものです。

## 新たなスタート

宇都宮大学国際学部長  
HANDS プロジェクト代表

田 巻 松 雄

宇都宮大学 HANDS プロジェクトは、正式名称を「グローバル化社会に対応する人材養成と地域貢献—多文化共生社会実現に向けた外国人児童生徒教育・グローバル教育の推進—」から「北関東を対象とする外国人児童生徒支援のための地域連携事業」に変え、引き続き文部科学省特別経費プロジェクトとして3年間のスタートを切ることが出来ました。まずは、このような報告が出来ることを、心から嬉しく思っています。

HANDS3年間で振り返ると、様々なことが思い出されます。

タイ語・スペイン語・ポルトガル語の3か国語版を刊行した『中学教科単語帳』。単語帳の刊行は当初の計画にはなかったものです。HANDSに集った面々で自ら何が出来るのか、そして外国人児童生徒支援に取り組んでいる様々な関係者との協力関係をどのように築いていけるのかについて検討を進める中で、タイ語の講師の先生とタイに留学経験のある学生たちがタイ語の単語帳作成に取り組んでいることを知りました。ものすごく大事な取り組みだと感じましたが、いつまでに刊行するという明確な目標もなければ、予算的な裏付けもない状態でした。そこで、HANDSの事業の一環としたいと相談をしました。合意が得られてからは、急ピッチで作業が進められ、初年度の成果となりました。中学単

語帳は子どもたちの学習支援に直接役立つ教材として好評を得ていますが、昨年度刊行したポルトガル語版に対する反響は特に大きく、全国からオファーが相次ぎました。当初1500部刊行しましたが、急遽200部を増刷しました。今年度はタガログ語版の刊行を計画し、先日つくば市まで出かけて、1回目の打ち合わせを行いました。

「外国人生徒の中学卒業後の進路調査」。この3月に行った調査では、122人の卒業生に関する回答を得ることが出来ました（現在、調査結果を整理中です）。3年間で391人の卒業生の進路が把握されたことになります。HANDSが始まった当初、外国人生徒の進路は非常に不透明な状態でした。統計データはありません。定時制高校への進学者が多いのではないかという思いで、いくつかの高校を訪問してみました。外国人生徒について特に把握していないという回答が一般的でした。全県的な規模での調査を継続していく必要があると判断し、平成23年1月の「協議会」（栃木県教育委員会と9市1町の教育委員会指導主事および小中学校代表校長にお集まりいただいている会議）で調査実施についての提案をしたのですが、1月に提案し3月に実施するという提案でもありましたし、内心はかなり難色を示されるのではないかと考えていました。

ところが、失礼ながら予想に反して、参加者からは好意的かつ建設的なご意見をたくさんいただくことが出来ました。様々な関係者との協力関係が出来つつあるとの手ごたえを感じた瞬間でした。3・11大震災が起こり、一時迷いましたが、思い切って実施しました。毎年、教育委員会・学校関係者のご理解・ご協力で高い回収率を得ることが出来ています。

「多言語による高校進学ガイダンス」。日本語・英語・ポルトガル語・スペイン語・タイ語・中国語・タガログ語・ウルドゥー語の資料を用いて、日本の学校制度や高校受検の内容などについて外国人児童生徒と保護者に基本的な情報を提供するガイダンスです。1年目は1回、2年目は2回、3年目は4回開催と、年々拡大してきました。昨年度開催したガイダンスで個人的に印象深かったのが、県北の大田原市で開催したガイダンスです。初めての午前中開催でしたが、予想よりも参加者が多く集まってくれました。そして、小中学校の先生方も多勢駆けつけてくれました。主催者、児童生徒・保護者、小中学校教員が一体となったガイダンスでした。今年度は、現時点で、那須塩原市（9月13日夜）、真岡市（9月

16日午後）、本学（10月28日午後）開催が確定しています。

これからの3年間、それほど新しいことは出来ないかもしれませんが、栃木県だけではなく北関東に視野を拡げるとともに、外国人学校に通う子どもたちにもより一層の関心を向けたと思っています。茨城県のブラジル人学校に通う子どもたちと宇大生との交流を図るサマーキャンプを8月に開催します。

最後になりましたが、この4月に国際学部長に就任しました。現在、国際学部の特色や社会的役割を再定義する作業を進めていますが、人材育成や地域貢献の面でHANDSは学部事業の柱の1つとなります。学部としてもHANDSをこれまで以上に応援していくつもりです。HANDSの仕事は、正直結構ハードではありますが、地域のニーズに応える事業を展開できる「嬉しさ」と「やりがい」を大いに感じています。HANDSに関わる学生組織HANDS JRも発足しました。今後とも、気を引き締めて取り組んでいきますので、皆様のご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

## 外国人児童生徒教育支援

# 学生ボランティア派遣事業の推進

宇都宮大学教育学部附属教育実践総合センター  
地域部門（スクールサポートセンター） コーディネーター

辻 猛 司

宇都宮大学HANDSプロジェクトが、外国人児童生徒が在籍する小中学校へ学生ボランティアを派遣しはじめて3年を経過しました。これまでの派遣実績は、表のとおりです。昨年度（平成24年度）についていえば、39名（国際26，教育12，農1）の登録者（ボランティアを希望する学生の届出数）があり、このうち29名が実際に小中学校等でボランティア活動を行いました。また、派遣の依頼件数が20件で、そのうち15件に延べ36名を派遣することができました。実際に活

動した29名の学生全員の活動回数の総計は、約300回です。

このように小中学校からの依頼件数もそこへの派遣学生数も確実に増加しています。これは、とりもなおさず、支援の要望、支援の必要性が高まっているということであり、ボランティア学生の応援を得て、外国につながる児童生徒を何とか支援したいという学校現場における外国人児童生徒教育の現実があるということだと思います。

幸い、平成25年度からのHANDSプロジェク